

草の芽句会たより

NO,104
29, 4, 6

おとなしく花撮るあるじ待ちし犬
石垣の反り美しき桜かな

範子

図書館の静かな刻や二分桜
鳥も虫も寄っておいでよ花むしろ

文子

楠落葉降りくるベンチにひとときを
ブランコに遊ぶ母子や春うらら

節子

背中より濠の風来る花見かな
白連の枝の先まで咲き誇り

禮子

悲話遺る二の丸井戸の桜かな
過ぎし日を思い出させて桜咲く

剋子

二人づれ自撮りの笑の花の城
雨雫桜色して花盛り

貞子

滝落つる音心地良き花見かな
菜の花畑ふいにひろがる丘の上
散らばりて群がりて咲く犬ふぐり
呆けしと言われ甘んじ日向ぼこ

芳子

貞

降り立ちし桜華やぐ城の町
返信のメール短き桜雨

純子

出席者 吉崎 大黒 氏家 馬場 小山
投句者 真鍋 川原 小林 森

城山は花曇り。朝桜を仰ぎながら大手門を潜る。お笑い芸人さんが人力車を引いて町中を走るイベントとかで、広場が賑わっている。壇上で挨拶する方も満面の笑顔。町を活気付けようとの意気込みが感じられ思わずアイスクリームを買ってしまった。昔も今も、桜は人の心をウキウキとさせてくれる。うるし林の海が見える場所に陣取ってお弁当を開く。馬場さんが畑で採れた葉牛蒡の天ぷらを持ってきてくれたのが美味しくて大人気。こんな日はいい句ができる私たち。欠席者からも全員の投句があり充実してハイレベル??の、お花見句会報となりました。

